



# radio Camnetに続くマガジン版 雲心月性

大槻ワールドへ  
ようこそ

Camnet マガジンをお楽しみの方々。マガジン版「雲心月性」です。お楽しみください。

さて、大槻は川崎医科大学の中で川崎医学会という学内の学会の運営委員長を務めています。教員や教授の先生方の部屋に入る廊下などにデジタルサイネージで学内の種々のイベントや講演会などのアナウンスを提示しているのですが、毎月4枚程の写真などで川崎医学会の機関誌への論文の投稿を促すPRをしています。

2017年の5月と6月のスライドを紹介！友人のMs. Keiko Cの描かれたイラストも使わせてもらっています。



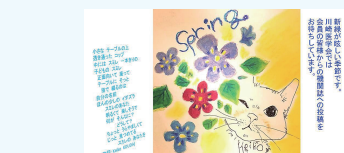
爽やかな5月に少し山際まで足を伸ばしてみると、天道虫や飛蝗など、生命の息吹が感じられます。



夢を沢山感じている少女は、淡いブルーの背景の中で小鳥たちに見守られながら、明日にはどんな具合に変身するのでしょうか？



この写真は、それほど季節感を示している訳ではないのですが、米国に学会で行った際に訪れた古いチャーチです。熊本の震災から1年を経て、新たに祈る敬虔な想いです。



可愛いニャンコも花がいっぱいの春を待っていました。ニャンコたちは寒がりだもんね。



水無月になるとと蝸牛。ちなみに『無』は「の」の意味の連体助詞「な」なので「水の月」ということ』だそうです。



さて、この画像集は基本的に論文の投稿を促すものなので、こんな風に若い医師たちに沢山論文を読んで、自分の研究や症例報告をまとめてみましょうっていうアナウンスをしています。



そして、6月は紫陽花。いろんな種類や色(確か地面の酸度に因るらしいのですが)があって、この季節、とっても楽しめますね。



そして Ms. Keiko C のイラストはこんな淡い色合いで、それでも夢見る気持ちを表すこともあります。そして、もうすぐ夏がやってくるのでしょうか！

いかがでしょうか？ このコラムで、これからも紹介していきたいなと思っていますので、是非、よろしくお願い致します。

今月の歌詞紹介。iTunes リリースしていますアルバム Scenes in Seasons より「雨音」作詞・作曲：大槻剛巳です。

こんな夜は あなたの胸  
優しさに 包まれて 眠りたいの  
白いバラを 紅く染めて  
燃えていた あの愛が 今は何処に  
雨音が 怖いわ この耳を 押さえて  
震えながら 呼んでみても  
思い出が 絡みつくと 小指の先

見つめ合えば 抱き合えば  
伝わった 響いてた 募る想い  
熱い紅茶 分け合うよに  
誓ってた あの愛が 今は何処に  
雨音を 閉ざして 囁きを 届けて  
瞳閉じて それでもなお  
叫びだす 衝動が 止まらないの

雨音が 怖いわ この耳を 押さえて  
心さえ 凍えて 砕けそうになるの  
微笑みに 溢れた あなたの面影も  
暗闇の 彼方で 探せそうにないの  
逃げ出す扉さえ 見失ったままで  
雨音が 怖くて 耐えられない

雨音を 閉ざして 囁きを 届けて  
震えが 止まらない しっかり 抱きしめて

あの頃の あなたは 何処に いるというの  
今はただ 他人の 冷たさが あるだけ  
もう 忘れたいのにな 肩先が 寒くて

雨音が 怖くて 耐えられない

こんな夜は あなたの胸  
優しさに 包まれて 眠りたいの

♪オリジナルCD  
プレゼントします！  
詳しくは  
プレゼントコーナーで

**プロフィール** 大槻 剛巳 (おつきたけみ)

川崎医科大学衛生学教授  
 0歳：京都府福知山市にて生誕  
 14歳：京都府中学校陸上競技大会にて100mハードル2位  
 14歳：KBS近畿放送AMラジオでリスナーの詩として採用  
 15歳：倉敷市にて転居  
 15&18歳：NHKあなたのメロディー出演  
 18歳：YAMAHAポプコン全国大会(譜面の部)出場  
 20歳：YAMAHA神戸との連携で楽曲依頼あり  
 24歳：川崎医科大学卒業  
 以降：川崎医科大学血液内科～衛生学にて診療・研究・教育に従事  
 1992-1996年：米国留学(医学研究)  
 1996年：岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作として「岡山の文学」に掲載  
 2009年：Camnet CH-F(10-19)パーソナリティ担当  
 現在に至る